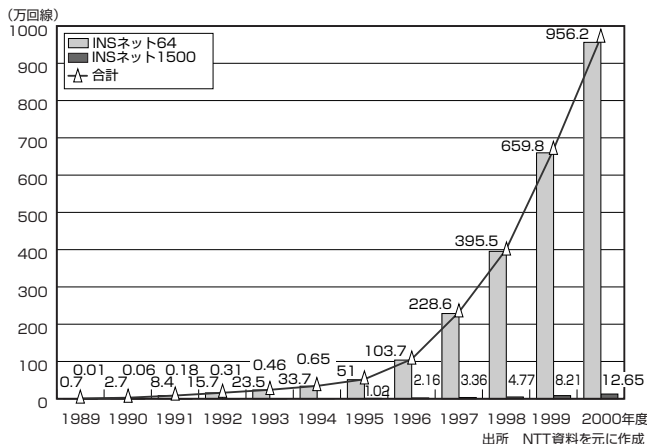


第1章 通信ネットワーク

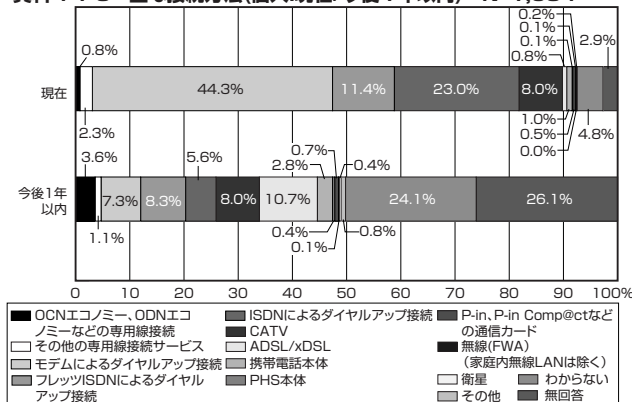
ISDN①

ISDNの伸びが鈍化

資料4-1-7 INSネット契約回線数の推移

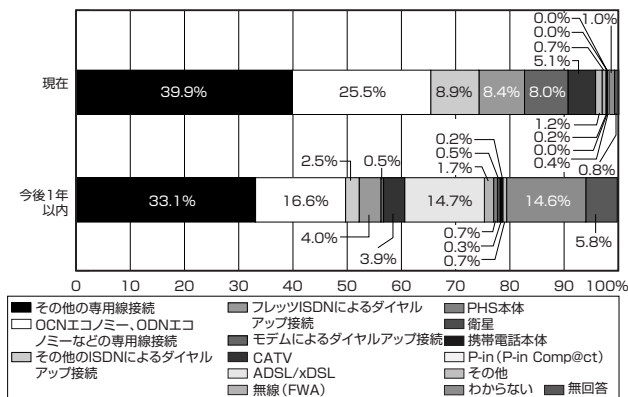


資料4-1-8 主な接続方法(個人:現在/今後1年以内) N=1,684



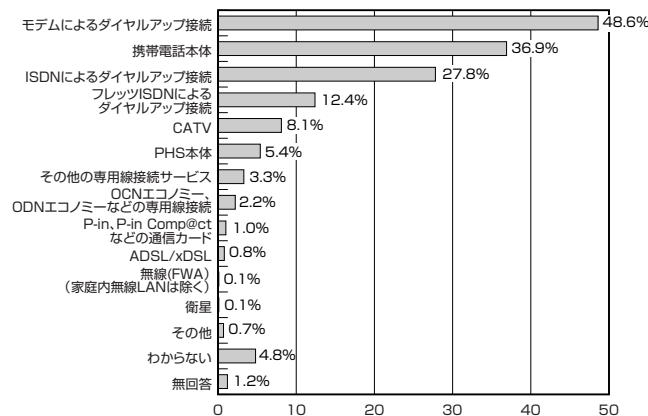
インターネット白書2001@インプレス, Access Media International, 2001

資料4-1-9 主な接続方法(企業:現在/今後1年以内) N=1,662



インターネット白書2001@インプレス, Access Media International, 2001

資料4-1-10 現在利用しているすべての接続方法(個人) N=1,684



インターネット白書2001@インプレス, Access Media International, 2001

解説

NTTのINSネットの契約回線数は着実に増加していて、1000万回線にもう少しのところまで来ている(資料4-1-7)。ISDNの将来は明るいかのように見えるが、対前年比でみると2倍超を記録した1996年、1997年以降、1.73倍、1.66倍、1.45倍と伸び率が落ちてきていることがわかる。もちろん限界はあるわけだが、ブロードバンド化がすすみ、xDSLやFTTHへのシフトによって、ISDNの伸びがさらに鈍化することが予想される。

個人の接続方法をみてみると、モデム

によるダイヤルアップ接続が約45%を占めている(資料4-1-8)。ISDNのダイヤルアップと、フレッツ・ISDNを加えると、合計で80%弱となる。これに対して今後1年以内の動向では、xDSLの伸びが顕著となる。動向を決めている約半数の人の中で、その5分の1以上の人がxDSLを選んでいるが、モデムやISDNを選んでいる人は半分にも満たない。ただ、動向を決められない人も半数いるわけで、これは選択肢が多くなったことと、どれがいいか迷っている状態を物語っている。

また企業の主な接続方法をみると、当

然ながら圧倒的に専用線型の接続が多く、ISDNの利用は20%にも満たない(資料4-1-9)。今後1年間の動向を見るとさらに顕著で、ISDNを主に利用すると回答した企業は6.5%にとどまる。CATVも含めて軒並み減っているなか、増加しているのはここでもxDSLだ。

最後に、個人が利用しているすべての接続方法をみると、携帯電話による接続だけが突出しているが、ISDNをはじめほとんどの接続方法が、先々の主な接続方法と割合が近いことがわかる(資料4-1-10)。

(井上尚司 武蔵野美術大学造形学部助教授)



[インターネット白書 ARCHIVES] ご利用上の注意

このファイルは、株式会社インプレスR&Dが1996年～2012年までに発行したインターネットの年鑑『インターネット白書』の誌面をPDF化し、「インターネット白書 ARCHIVES」として以下のウェブサイトで公開しているものです。

<http://IWParchives.jp/>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、データ、URL、名称など)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真・図の作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は掲載されていない場合があります。
- このファイルの内容を改変したり、商用目的として再利用したりすることはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用される際は、出典として媒体名および年号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレスR&D)などの情報をご明記ください。
- オリジナルの発行時点では、株式会社インプレスR&D(初期は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めました。すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接および間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

お問い合わせ先

株式会社インプレス R&D

✉ iwp-info@impress.co.jp